

若宮大路 (日本の道百選)

源頼朝が妻、政子の安産祈願のため造営したと伝えられ、由比ヶ浜から鶴岡八幡宮へ通じる参道。二の鳥居と三の鳥居の間に残る段葛は、段は壇、葛はその上方にあって縁石を兼ねる石を置いたという意味の道。

星ノ井 (星月夜ノ井、星月ノ井)

鎌倉十井の一つ。坂ノ下の虚空蔵堂前にある。井名の由来は、昔 昼でも井戸中に星がみえていたためだったが、下働きの女が菜刀をおとして以来見えなくなったという伝承がある。

月影地藏尊

地藏堂のご本尊。もとは月影ヶ谷(やつ)の阿仏尼邸に祀られており、現在は極楽寺の谷戸に佇む。本尊は何回かの火事で焼け、現在の木造地藏菩薩立像は江戸時代のもの。

大仏坂切通 (国指定史跡)

鎌倉大仏 (国宝 銅造阿弥陀如来坐像) に由来。現大仏隧道上から「火の見下」のバス停付近までの約1kmの道筋で、梶原、山崎をへて藤沢へ通じた。開鑿時期は未詳(1240～1250年頃か) 吾妻鏡にも大仏坂切通の名称は見えない。

一向堂：常盤の小字。昔僧唯善草庵がこの附近に有ったが、戦国の際に兵火に罹りて庵が廃跡となった。その後この附近を一向堂と呼ぶようになった。一向宗は親鸞開祖の浄土真宗で一向堂は鎌倉における同宗の存在を示す遺称といえる。

佐助稻荷神社

創建は不明だが、社伝によると建久年間(1190～1198年)に、頼朝が畠山重忠に命じ再建させた稻荷と伝えられている。幼少の頃「佐殿」(すけどの。前右兵衛佐殿(さきのうひょうえのすけどの、の略))と呼ばれていた頼朝が伊豆の蛭ガ小島に流されていた頃、ここの稻荷神が翁の姿に化けて拳兵を勧め、助けたということから「佐助」稻荷の名がついた、と伝えられる。